

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、持ち直している

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要

〔2013年7-9月期実績、10-12月期および2014年1-3月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2013年9月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象13,043社、有効回答企業数7,121社、回答率54.6%）。

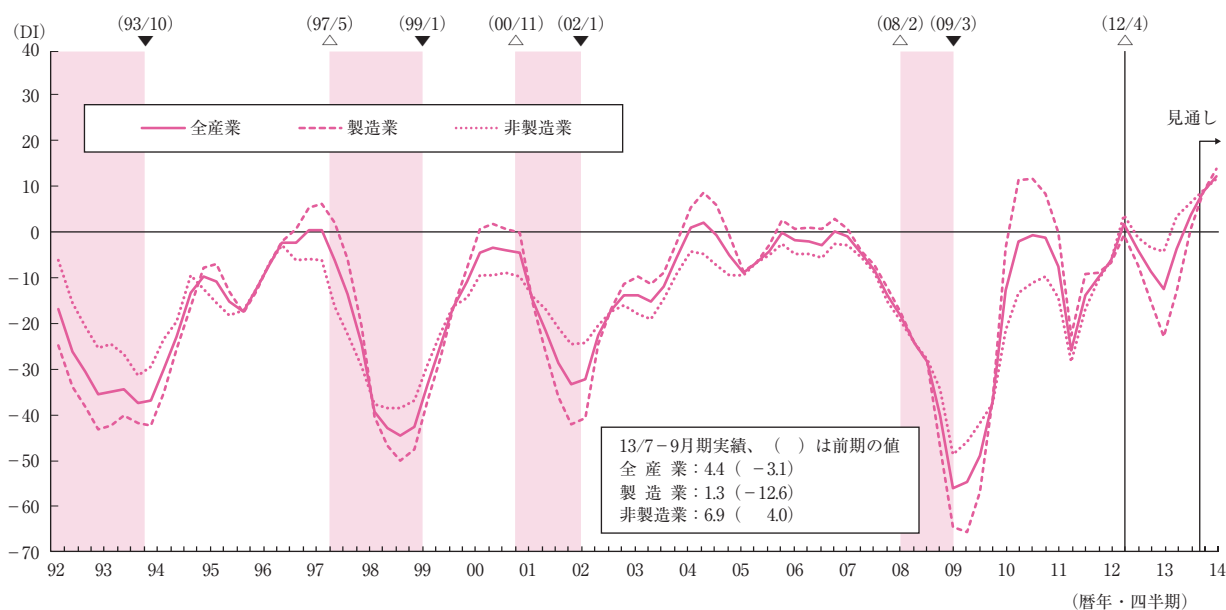
前期上昇に転じた中小企業の業況判断DIは、今期プラス水準となり、先行きも上昇する見通しとなっています。中小企業の景況は、持ち直しています。

5期ぶりにプラス水準となった業況判断DI

今期（2013年7-9月期）の業況判断DI（全産業）は、前期（2013年4-6月期）から7.5ポイント上昇し4.4となりました（図表-1）。プラス水準となるのは、5期ぶりです。製造業は前期から13.9ポイント上昇し1.3に、非製造業は2.9ポイント上昇し6.9になりました。

先行きについても、製造業、非製造業のDIはともに上昇し、全産業で来期（2013年10-12月期）は9.5に、来々期（2014年1-3月期）は12.7になる見通しです。中小企業の景況は、持ち直しています。

図表-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



（注）△は景気の山、▼は景気の谷、網掛け部分は景気後退期。ただし、2012年4月の山は暫定的に設定されたもの。それ以降の谷は設定されていないため、網掛けはしていない（以下同じ）。

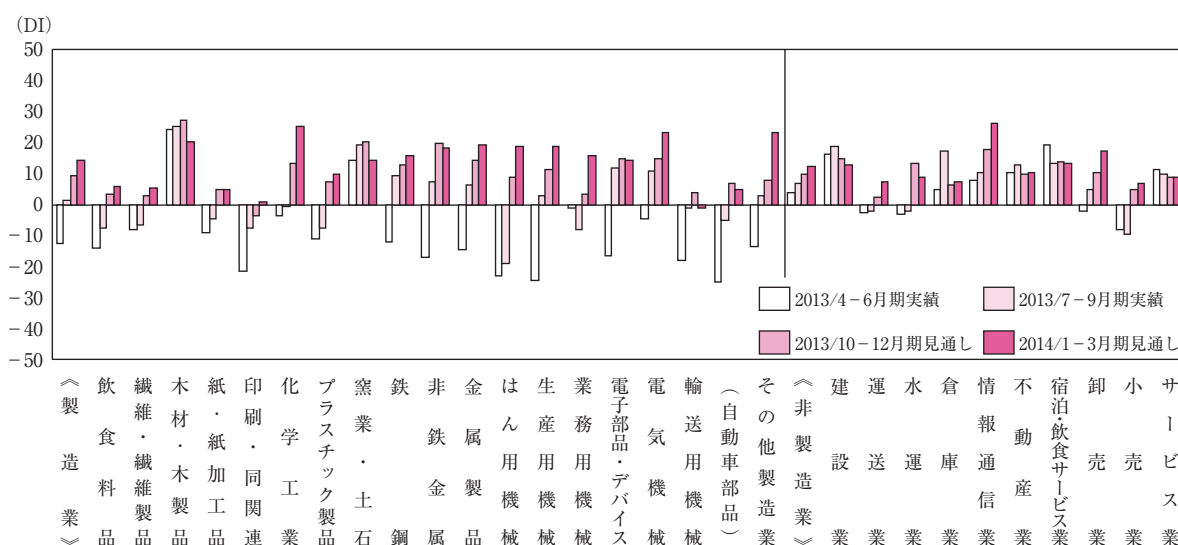
素材・機械関連業種にも DI の改善の動き

今期の業況判断 DI を業種別にみると、製造業は、ほぼすべての業種で上昇し、木材・木製品や窯業・土石など建設資材関連の業種が引き続き高い水準にあるほか、鉄鋼や金属製品、電子部品・デバイス、電気機械などの素材・機械関連業種の DI も、プラス水準に転じてきています（図表－2）。

非製造業は、公共工事や住宅、マンションの着工が好調な建設業をはじめ、情報通信業、宿泊・飲食サービス業など、多くの業種でプラス水準となりました。その一方で、運送業や水運業、小売業は、燃料費の高止まりや仕入価格の上昇などを背景に採算面で苦戦し、DI はマイナス水準となっています。

先行きについてみると、来期以降は、製造業、非製造業ともにほとんどの業種でプラス水準となる見通しとなっています。

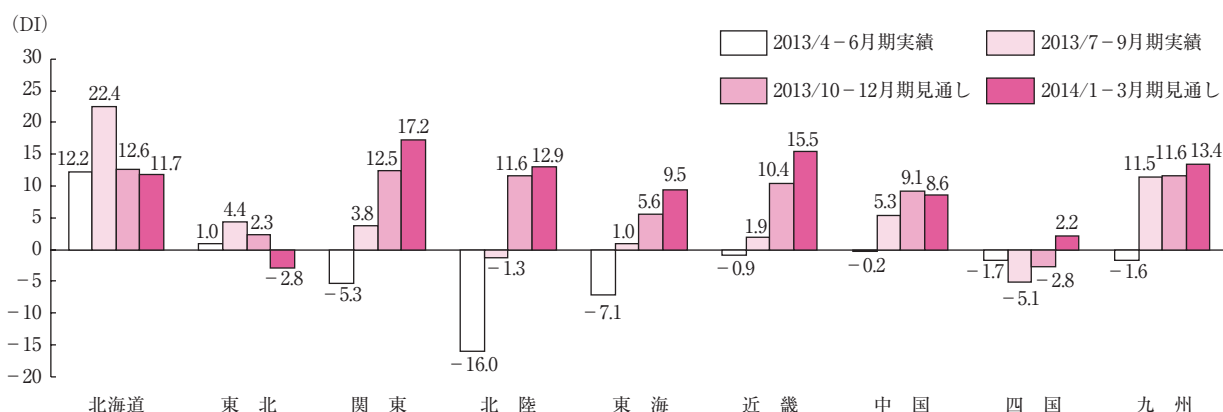
図表－2 業種別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



多くの地域がプラス水準に

業況判断 DI を地域別にみると、今期は北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、九州の 8 地域で上昇し、多くの地域でプラス水準となっています。先行きについても 7 地域で上昇する見通しです（図表－3）。

図表－3 地域別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）

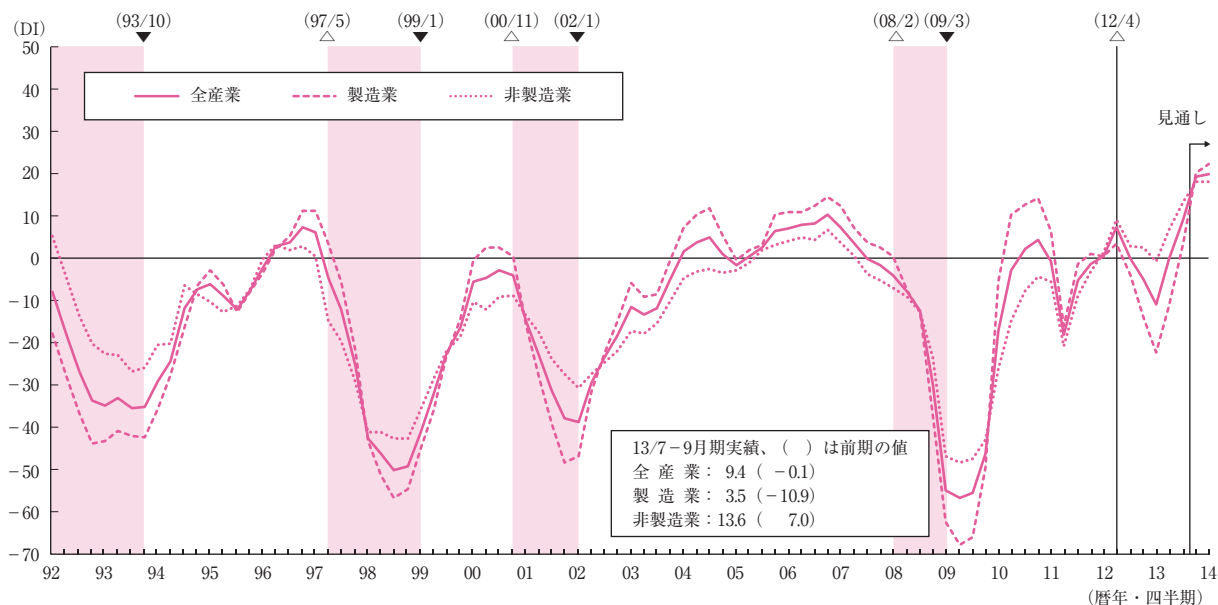


売上DIは製造業、非製造業ともにプラス水準に

今期の売上DI（全産業）は前期から9.5ポイント上昇し、9.4となりました（図表-4）。上昇は2期連続で、プラス水準となるのは4期ぶりです。製造業は前期から14.4ポイント上昇して3.5となり、プラス水準に転じました。非製造業は6.6ポイント上昇して13.6となり、プラス幅が拡大しています。

先行きについても、製造業、非製造業ともに上昇する見通しとなっています。

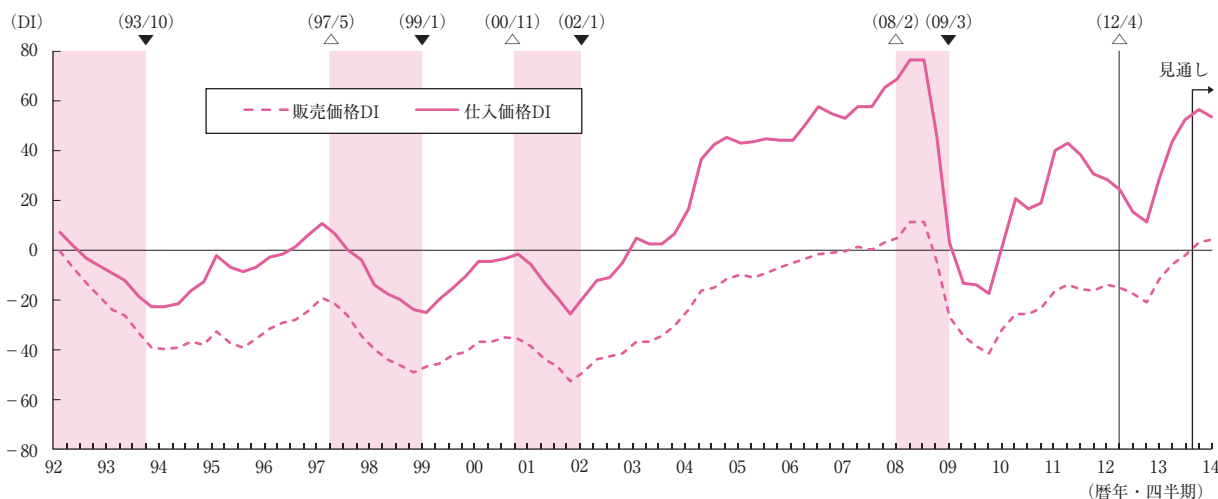
図表-4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」-「減少」企業割合、季節調整値）



価格関連DIはいずれも3期連続で上昇

今期の価格関連のDI（全産業）についてみると、販売価格DIは前期から4.1ポイント上昇し-1.7となりました（図表-5）。3期連続の上昇ですが、依然としてマイナス水準にあります。一方、仕入価格DIは前期から8.4ポイント上昇して52.5となり、両DIの差は広がっています。来期の販売価格DIは3.5に、仕入価格DIは57.0になる見通しです。

図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも前年同期比で「上昇」-「低下」企業割合、原数値）

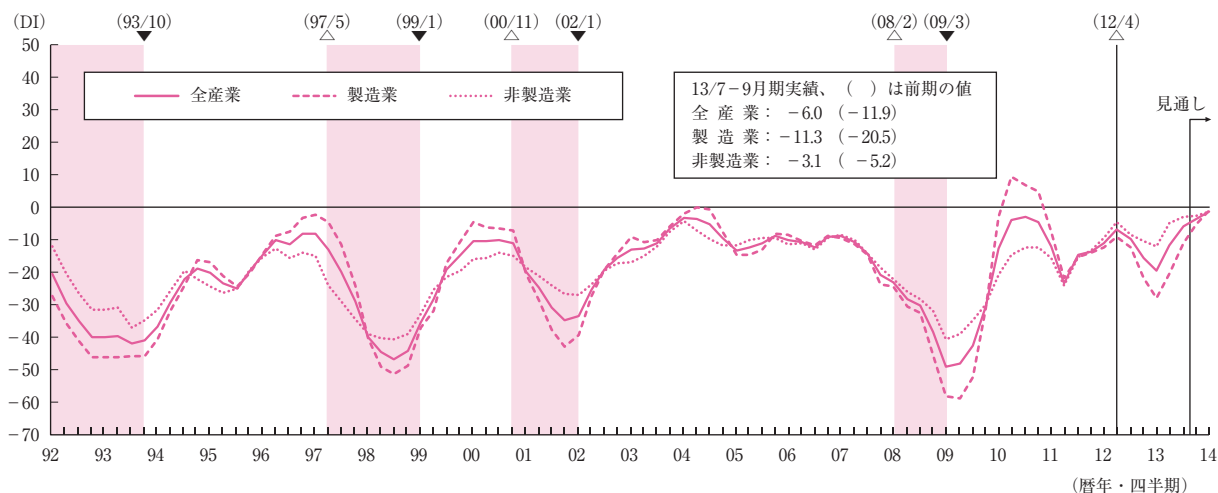


純益率 DI はマイナス幅が縮小

今期の純益率 DI（全産業）は前期から 5.9 ポイント上昇し -6.0 となりました（図表-6）。上昇は 2 期連続です。製造業は前期から 9.2 ポイント上昇し -11.3 に、非製造業は 2.1 ポイント上昇し -3.1 になりました。

先行きについても上昇し、全産業で来期は -3.6 に、来々期は -1.4 になる見通しです。

図表-6 純益率 DI の推移（前年同期比、「増加」-「減少」企業割合、季節調整値）

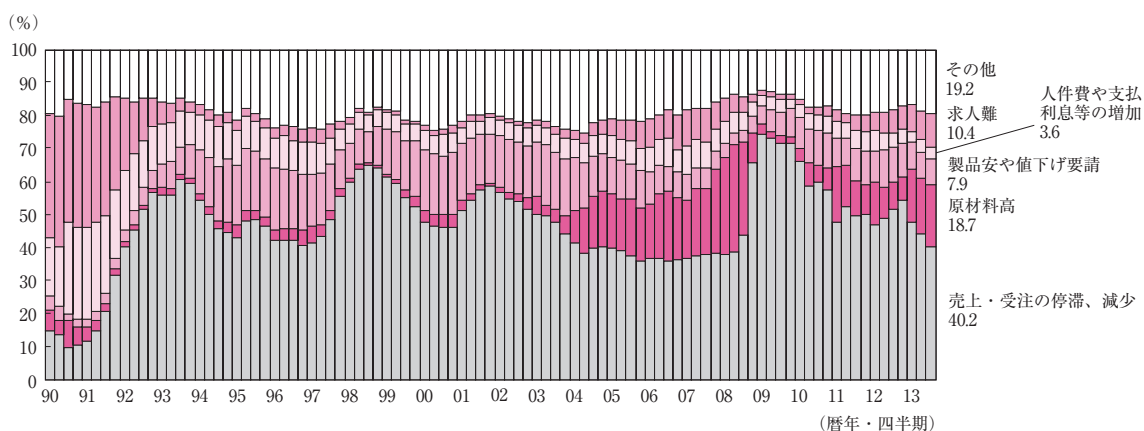


「原材料高」「求人難」の上昇が続く

当面の経営上の問題点については、最も多い「売上・受注の停滞、減少」は 3.8 ポイント低下し 40.2% となりました（図表-7）。一方、「原材料高」と回答した企業の割合は 1.6 ポイント上昇し 18.7% となりました。また、「求人難」の割合も 1.7 ポイント上昇し 10.4% となっています。

中小企業の景況は、前期低調であった素材・機械関連の製造業にも業況判断 DI がプラス水準に転じる業種がみられるなど、持ち直してきています。この動きは年末、年度末にかけて続く見通しです。（渡辺 綱介）

図表-7 当面の経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ~ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ~